

# 名城大学建築同窓会会報

●発行/2023年4月1日 ●編集/名城大学建築同窓会会報委員会

No.151

**Uganda Kantaga 地区再編計画**

**自立共生体のための循環的設計手法**

**01. 提案**  
 洪水の越りやみ、低層地帯にスラムが形成  
 溝にゴミが溜まることにより洪水が越りやすくなっている  
 ①スラム形成  
 ②修繕費を払えず ③職い家の崩壊  
 貧困の連鎖を断ち切る  
 “建築”によるアップサイクル  
 価値がないものに手を加え付加価値を持たせ  
 価値のあるものに変える

**02. 設計手法**  
 生活の場の基盤を  
 残すべき要素とする  
 基盤を繋ぐ構造体  
 人の行為を誘発する身体スケールに沿った構造体でつくる  
 人に境界をつくってきた建築が人を繋ぐ建築となる  
 構造とすることで人を繋ぐ建築が残り続ける

**03. 材料計画**  
 価値がなにもものに価値を生む

**02 ペットボトル蛇籠**  
 ペットボトルに互鎖をつめることで、  
 手の平に載せて運ぶことができる  
 可動性基盤となる  
 蛇籠とペットボトルは後に壁の土台  
 として使用される

**05 竹筋コンクリート**  
 コンクリート床の鉄筋を竹にし、  
 配筋をすることによって、コン  
 クリートの中性化をしないコン  
 リート床となった。コンクリート  
 スラブにより増築可能な空間を生む

**03 竹柱**  
 竹が型枠の役割を果たした  
 竹に打設することによって型枠の  
 役割を果たし、  
 施工の工程を減らすことで汎用性  
 を生んだ

**06 鉄メッシュ土壁**  
 仮設の時に使用した蛇籠を利用  
 蛇籠のメッシュが竹小舞の役割を果  
 たす。また、ペットボトルによっ  
 て平らな面積が生まれ、土壁が塗りや  
 すい施工の工程を減らし、施工期  
 間を下げることで汎用性が生まれた

最優秀賞(雑誌『近代建築』別冊掲載作品)

Uganda Kantaga地区再編計画～自立共生体のための循環的設計手法～ 新井 花奈

## INDEX

会長・学科長あいさつ……………1・2	建築学科教職員……………5	令和4年度予算……………8
情報交流会……………3	就職情報……………6	会則……………9
支部だより……………3・4	令和3年度事業報告……………7	表紙・裏表紙解説……………10
キャンパスニュース……………4	令和3年度決算報告……………7	令和4年度役員……………10
同窓会ホームページ……………5	令和4年度事業計画……………8	



建築同窓会会長

**鈴木 千春**

(昭和54年卒)

建築同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。又、日頃より同窓会活動にご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

建築同窓会会長を引き継ぎ1年が経過しましたが、2020年1月上旬から始まった新型コロナウイルスの感染拡大の影響により同窓会活動や学内行事への参加も見合わせざる状況が現在も続いております。その中で昨年の11月には、2年前に企画しました建築学科の3年生を対象に、学生の就職支援に繋がる同窓会主催による建築分野別説明会を開催することが出来ました。ゼネコンや設計事務所等で活躍されているOB・OGの方6名に参加していただき、学生との意見交換を通じ業務の内容等熱心に聞き入る姿を見て、今後は多くの学生に参加してもらえるよう企画していきたいと感じました。

本年におきましては、今年の5月には新型コロナウイルスも2類相当より5類に引き下げるとのことですので、6月の通常総会に向け新たな体制作りと学内行事への参加と支援、情報交流会や昨年実施した就職支援活動の継続に向け取り組んで行きたいと思っております。

又、大学のクラブ活動では女子駅伝部では全日本大学女子駅伝対校選手権で優勝し6連覇を達成、12月の全日本大学女子選抜駅伝競走でも優勝し5連覇し2冠を達成・硬式野球部は愛知大学野球連盟のリーグ戦で春・秋連覇を達成し明治神宮野球大会ではベスト4に入るなど活躍をされており、又東海地方の高校生に人気の大学ランキングでは1位になるなど多方面に渡る活躍や評価を得る大学となっており大変誇らしく思っております。同窓会活動も会員の方のみならず、多くの学生が参加できる企画を増やし今後の同窓会活動が今まで以上に発展できるよう会員の皆様と取り組んで行きたいと思っております。

最後に会員の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念致しまして私からの挨拶とさせていただきます。





建築学科長(令和4年4月より)

石井 仁

名城大学建築同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より学科の諸活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。私、昨年4月より学科長を拝命いたしましたが、1年間、無事に学科を運営することができました。今年もつつがなく務めていく所存であります。

はじめに学科の人事等についてご報告いたします。今年3月に鈴木博志先生がご退職されました。46年の長きにわたり教育・研究活動に携われ多くの優秀な人材を世に送り出し、また顕著な研究成果を多数あげられました。学科長を3期6年間務めるなど学科運営にもご尽力いただきました。これら多大なる貢献により名城大学より名誉教授の称号が授与されました。そして4月から鈴木先生の後任として萩原拓也先生をお迎えします。萩原先生のご専門は鈴木先生と同じ都市計画学であり、特に都市の災害復興に関する研究で成果をあげておられます。学科で最も若い年齢の萩原先生には、今後、教育・研究面での一層のご活躍を期待しています。同じく4月から市之瀬敏勝先生は特任教授になられます。大学には在籍されていますが学科の教育・研究活動からは離れます。昨年は訃報もありました。元建築学科教授の松井徹哉先生が逝去されました。昨年のあいさつ文では日本建築学会大賞を受賞されたことをお伝えしましたので早すぎる訃報に驚きを隠せません。

喜ばしい出来事として、昨年は新型コロナウイルス感染症で中断が余儀なくされていた同窓会による対面での交流活動が行われました。3年生を対象とした建築分野別説明会が11月19日に開催されました。この説明会は、一昨年より同窓会で企画されていた学生の就職支援に関わる活動です。当日ご参加いただきました皆様にこの場を借りて、お礼申し上げます。説明会に参加した学生は、建築の各分野でご活躍されている会員の皆様のお話を熱心に聞いていました。とても良い機会だと思いますので、今後とも引き続き開催いただけますようお願い申し上げます。学科からのお知らせですが昨年も学生が学会や設計競技等で優れた賞を受賞しています。研究室と外部との共同プロジェクトも新聞社に掲載されました。詳しくは学科ホームページで紹介していますのでご覧いただければ幸いです。

大学志願者数減少という入試全体の状況は変わりませんが、コロナ禍により就職に強い理系の志願者に増加傾向があるようです。それが理由なのか定かではありませんが建築学科は例年並みの受験者数でした。就職は最近の人材不足により堅調を維持しています。

末尾となりましたが、同窓会を始めとする本学建築学科にご関係の皆様方の今後のますますのご発展とご健康を祈念し、学科長の挨拶とさせていただきます。

## 令和4年度情報交流会

建築同窓会情報交流会につきましては、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止をさせて頂きましたが、建築同窓会の新たな試みとして令和4年11月19日(土)に3年生を対象とした学生の就職支援企画(建築分野別説明会)を開催致しました。当日はゼネコン・意匠設計・構造設計・設備設計・デベロッパー・インテリア系のブースを設け、各分野で活躍されるOB・OGの方に自分が携わっている業務内容、分野等について説明して頂きました。少人数での開催という事もあり学生の方が熱心に耳を傾け、気軽に就職や業務内容についての質問をしている状況が見受けられました。実施後のアンケートにつきましても好評を頂き今後におきましてもOB・OGが親睦を図る情報交流会の開催に加え、学生の方と卒業生を繋ぐこのような企画は続けていきたいと考えております。同窓会会員の皆様にはご理解・ご協力をお願い致します。

建築同窓会事業・経済委員会



## 支部だより

### 『東三河支部』だより

東三河支部 支部長 山本 利州 (昭和 37 年卒)

新型コロナウイルスが発生してからすでに満3年が経ちました。

生活や仕事のスタイルは、オンラインも当たり前となり、フェイスツーフェイスはお互いの気持ちを感じ取る貴重な情報交換の手段となりましたが、飲食を伴う大人数の会合はまだまだ抵抗があるのではないかと思います。

そんな中、東三河支部では、昨年12月に(株)オノコムのグループ企業に就職している名城大学建築学科卒業生で作る「オノコム名城会(メンバー13名)」のメンバー数名と、豊橋駅近くの焼き鳥屋(だいしん)にて名古屋コーチンのすき焼きを囲んで、久しぶりに近況報告会を開催し盛り上がりました。アルコールを交えた後輩との交流はとても楽しかったですし、今後の東三河支部を背負っていただくと若手とのひとは、大変有意義なものでした。

オノコム名城会の皆さん、ありがとうございました。そして、東三河支部をよろしく願いいたします。個人情報の取り扱いが難しい昨今、既存会員や新規会員の連絡もままならず、口込みが頼りの支部活動にあって、卒業生が多く集まっている企業の存在は、ありがたい限りです。80歳を過ぎた支部長なので、早く世代交代をしなければと思うこの頃です。



## 『関西支部』だより

コロナ禍ですが皆様お変わりございませんでしょうか。

関西支部はかねてより延期を余儀なくされていた支部総会を2022年10月2日(日) 奈良斑鳩、法隆寺門前町の和空法隆寺にて開催いたしました。

ご来賓の石井学科長はじめ、ご家族含め17名の方が参加されました。世界遺産法隆寺境内をボランティアの方のご案内で見学し、秋の一日を楽しく過ごし、久しぶりの会員の親睦を深める事が出来ました。総会では2年分の会計報告、活動報告等が審議され、ささやかですが15回の記念品を参加者にお配り致しました。

次回は2023年5月28日(日)に、兵庫県舞子の明石海峡大橋が一望出来る舞子ピラにて第16回総会を開催する事に決定いたしました。

ただ残念ですが、建築同窓会関西支部の総会もこの回で最後になる予定です。理由といたしましては、高齢化等による年々の参加者の減少、活動できる役員の減少とそれに伴う負担増、新規卒業生の入会者は全く無い等が挙げられます。

ただ会員の負担も少なく、自由で楽しく親睦を深められる「生まれ変わった(同窓)会」を引き続き行おうという要望もあり、次回の総会後に新しい会の進め方を話し合う予定です。

いろいろ困難な時代が続きますが、同窓生の皆様がお元気でお過ごしになられること祈念いたします。

関西支部 支部長 鈴木 自 (昭和47年卒)



## キャンパスニュース

### 令和4年度 名城大学建築学科 学科賞受賞者

#### 卒業研究部門

最優秀論文賞(工学分野)	榊原 唯
〃	藤岡 優希
最優秀論文賞(計画分野)	洞口 拓海
優秀論文賞(工学分野)	岡野 克彦
〃	川上 巧
〃	古居 元
優秀論文賞(計画分野)	城戸 美穂
〃	古川 耕平

#### 卒業制作部門

最優秀賞	新井 花奈
優秀賞	牛田 結理
〃	西本 帆乃加
アーキテクト賞	種田 季林



## 建築同窓会賞

建築同窓会は、学部卒業生及び大学院修了生の優秀者に建築同窓会賞を贈り表彰しています。受賞者は、各研究室が表彰候補者を選出し、学科より同窓会に推薦して決定しました。下記の受賞者には、学位記授与式にて建築同窓会会長より表彰状を授与します。

### 令和4年度同窓会賞受賞者

市瀬 智之(生田研)	山内 俊人(高井研)	渡邊 舜也(武藤研)
矢口 諒(石井研)	橋本 晃輔+吉田 龍弘(高橋研)	坂井 健太(吉永研)
川上 巧(市之瀬研)	市原 大輝(谷田研)	秦 康人(吉久研)
鈴木 颯太(大塚研)	生野 雅弥+李 晨(寺西研)	川部 綺乃(米澤研)
江口 菜々実+尾島 梨紗(岡田研)	水野 由唯(松田研)	
内田 翔太(佐藤研)	福山 真衣(三浦研)	

## 名城大学建築同窓会ホームページのご案内

名城大学建築同窓会ではホームページを随時更新しております。

新鮮な建築同窓会活動の状況やキャンパス内の様子などの情報を配信しております。

情報発信のツールとして同窓会、建築学科、学生の皆さまにさまざまな情報の橋渡しができるよう

充実させていきたいと思っておりますので多くの皆様にアクセスしていただきます様お願い申し上げます。

建築同窓会 名城大

検索



建築同窓会 会報・名簿・IT委員会

## 建築学科教職員

教 授	建築計画	生田京子	准 教 授	建築構造	大塚貴弘
〃	環境設備	石井 仁	〃	建築計画	佐藤布武
〃	環境設備	岡田恭明 ○	〃	建築構造	高橋広人
〃	建築計画	高井宏之	〃	建築計画	谷田 真 ○
〃	建築材料	寺西浩司	〃	建築材料	平岩 陸
〃	建築構造	武藤 厚	〃	建築構造	松田和浩
〃	環境設備	吉永美香	〃	歴史意匠	三浦彩子 ○
〃	環境計画	吉久光一	〃	歴史意匠	米澤貴紀
			助 教	建築計画	萩原拓也

2023年4月1日現在 ○印は名城大学卒業生  
(あいうえお順)



## ■ 就職・進路の動向

寺西 浩司（就職・進路支援委員）

### 1. はじめに

以前は五輪後の建築業界の動向を不安視する声も多く聞かれましたが、結果的には、五輪前を避けて延期していた工事が現在も多く残っていることで、当面、建設業の需要は安定しているようです。また、建設業界では、これまで猶予されていた働き方改革の残業時間規制が来年4月からこの業界にも適用されることで、より多くの職員が必要になっています。このような事情から、建築関連業界の求人状況は引き続き堅調に推移しており、本年度は、これまでよりさらに売り手市場の様相を呈しています。

### 2. 就職先の状況

建築学科は、取り扱う領域が芸術から工学まで広範ですので、それに応じて、従来から、就職先の裾野は広く、多様な業種・職種に就職があります。ただし、実際には、建築学生の就職先は、総合建設業と住宅産業が全体の過半数を占めており、この傾向は長年変化していません。最近の特徴的な傾向としては、官公庁に就職する学生がやや増加したことなどが挙げられます。

### 3. 最近の就職活動の特徴

#### (1) スケジュール

経団連の就職協定が2018年に廃止されてからは、就職活動のスケジュールが年々早期化・長期化してきており、現在は、夏季インターンシップの申込み時期である3年次の6月頃が就職活動の実質的な開始時期になっています。また、大手ゼネコンを中心として、早期選考で多くの学生を採用する企業も増えてきています。この場合、夏季のインターンシップや会社説明会で企業が学生と接触を図ったうえで、水面下で選考が進むことになり、学生の学業への影響という点では歓迎すべき状況とはいえません。ただし、現実としては、インターンシップに参加することにより、学生はその企業に親しみと安心感を得るようで、インターンシップに参加した企業の中から就職先が決まるケースは多いように見受けられます。

#### (2) 就職活動の形態

一昨年度や昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目的としてオンラインでの会社説明会や面接が広く実施され、このことに対して、企業の雰囲気をつかみにくいなどの不安を訴える学生もいました。本年度は、行動制限緩和の状況の下で、対面での会社説明会や面接に回帰する企業も多くなってきており、結果的に、就職活動の形態が多様化しています。これは、学生にとって就職活動を行いやすい状況だといえます。

### 4. 就職活動の様子

最近の学生のワーク・ライフ・バランスを重視する気風が反映されているのかもしれませんが、このところ、就職活動に対する学生のモチベーションがやや低くなっているように思います。たとえば、大企業に入って自分を試してみたいというような意気込みはあまり感じられず、自分で自分自身の身の丈を測って分相応と思うような企業を割と安直に選択しているという印象が強いです。転職が一般的な今の時代であっても、自分できちんと納得したうえで就職してほしいと考えています。

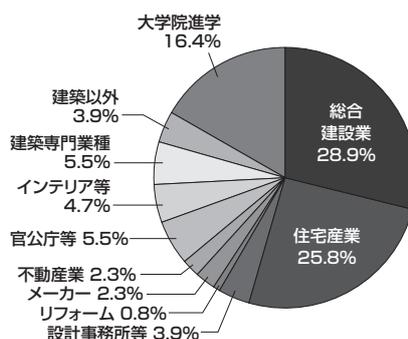


図1 2022年度の卒業生(学部)の就職先(暫定集計結果)

# 令和3年度事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

## 1 総務委員会

### 1) 会議の開催

- ・第1回役員会開催 令和3年11月10日
- ・第2回役員会開催 令和4年3月9日

- 2) 建築学科講演会等への協力支援を実施いたしました。
- 3) 学位記授与式に祝金供出、参加支援をしました。

## 2 財政委員会

- 1) 1年生オリエンテーションは中止。会費振込票を配布していただきました。
- 2) 財政委員会は開催致しておりません。
- 3) 会費振込依頼
  - 令和3年12月21日  
1年生・保護者へ会費振込依頼発送 149通
  - 令和3年12月22日  
令和2年3月卒業生へ会費振込依頼発送 63通
  - 令和3年12月24日  
4年生・保護者へ会費振込依頼発送 64通
  - 令和3年12月27日  
3年生・保護者へ会費振込依頼発送 69通
  - 令和3年12月29日  
2年生・保護者へ会費振込依頼発送 3通
  - 令和4年2月21日  
会員・新会員へ会費振込依頼発送 418通
- 4) 2年生・3年生・4年生ガイダンスは中止。会費振込票を配布していただきました。
- 5) 年会費、永年会費納入のお礼状を発送しました。(146通)

## 3 事業・経済交流委員会

- 1) 次回情報交流会ほか学生参画型行事の企画を立案、検討。
- 2) 情報交流会開催は延期。

## 4 会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(149号-A4版)を2,000部発行。
- 2) 卒業生・在校生用に建築学科に会報を1,000部寄贈。
- 3) 郵送希望会員、会費納入者(892人)に郵送。  
26回生(S54卒) 136人、31回生(S59卒) 129人含む。
- 4) 名簿の追加、訂正。
- 5) ホームページの更新。

## 5 組織委員会

- 1) WEB会議、書面採決なども含め、役員会・総会等を開催した支部に対して活動支援金を支出しました。
  - ・中国支部：役員会-開催、総会-書面採決(5月)
  - ・関西支部：役員会-WEB会議にて開催、総会-延期
  - ・岐阜県支部：役員会-メール交換にて開催、総会-書面採決(5月)



# 令和3年度決算報告

(単位:円)

項目	予算額	決算額	備考	
収入の部	建築同窓会年会費	690,000	441,000	年会費0名(うち新規0名)、R3永年会費0名
	学生会員会費	900,000	530,000	
	事業収入	400,000	0	
	理工同窓会援助金及び学生会員援助金	280,000	308,000	理工同窓会援助金
	寄付金	10,000	53,000	協賛金等
	利子及び雑収入	1,000	26	利子(元帳+各委員会)等
	収入合計(A)	2,281,000	1,332,026	

(単位:円)

項目	予算額	決算額	備考	
支出の部	総務委員会	540,000	180,440	
	学科支援金	300,000	180,000	建築学科への支援金
	会議費	120,000		評議員会、役員会、正副会長会
	交際費	40,000		他会お祝い金、慶弔費
	運営費	80,000	440	通信費等
	財政委員会	210,000	83,363	
	郵送費	100,000	29,514	会費振込依頼、お礼状発送費
	印刷費	50,000	0	同窓会封筒等印刷
	運営費	60,000	53,849	オリエンテーション、ガイダンス等打合せ、備品費等
	事業・経済交流委員会	430,000	0	
	情報交流会費	400,000		コロナのため活動停止
	事業費	20,000		
	運営費	10,000		
	会報・名簿・IT委員会	840,000	672,884	
	会報印刷費	350,000	339,900	会報等案内印刷
	会報郵送費	290,000	145,485	会報郵送等
	名簿調査作成費	50,000	50,000	名簿調査
	HP管理費	140,000	135,289	ドメイン更新、HPメンテナンス
	運営費	10,000	2,210	通信費、備品費等
	組織委員会	210,000	60,540	
支部支援費	110,000	540	中国、岐阜、関西支部	
旅費交通費	60,000	0	各支部総会旅費	
運営費	40,000	60,000		
予備費	51,000		振込手数料	
支出合計(B)	2,281,000	997,227		
当期収支差額(A)-(B)	0	334,799		

# 令和4年度事業計画

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

## 1 総務委員会

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施。
- 2) 会議の開催
  - ・通常総会開催 本年度の開催は中止とする。WEB・書面にて議案採決を図る
  - ・役員会開催 可能な限り役員会を随時開催  
WEB活用・メール連絡を随時活用し役員間の連携強化を図る。
  - ・評議員会開催 状況に応じて開催、もしくはWEB・書面にて議案承認を願う
  - ・正副会長会議 当面、WEB・書面にて連絡・調整を図ることとする。
- 3) 学内各行事への協力支援・協賛等で、同窓会と学内の連携、協調を図る。
  - ・先生方との連絡体制の充実を図り、役員会との調整・対応を強化していく。
- 4) 卒業生並びに評議員と役員会の連携強化を図る。
- 5) 慶弔に関する事務

## 2 財政委員会

- 1) 今年はガイダンスが実施されるため、学生会員へ会費振込票を配布する。
- 2) 同窓会として会費の納入と共に在校生にプライバシーポリシーによる学生の名簿も充実する取り組みをする。
- 3) 会員への年会費納入案内を発送する。  
60歳以上の会員の方に永年会費のご案内並びに納入をお願いする。
- 4) 学生会員・保護者様へ会費納入案内を発送する。
- 5) 卒業生(令和2年、3年度)へ会費納入案内を発送する。
- 6) 会費納入会員へ礼状ハガキを発送する。
- 7) 財政委員会を年2回程度、開催する。

## 3 事業・経済交流委員会

- 1) 情報交流会ほか学生参画型行事の企画を立案、検討。  
日時、場所、開催方法等については別途協議。

## 4 会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(150号-A4版)を2,000部発行。
- 2) 卒業生・在校生用に建築学科に1,000部寄贈。
- 3) 郵送希望会員、会費納入者に郵送。  
27回生(S55卒)、32回生(S60卒)含む。
- 4) 名簿の追加、訂正。
- 5) ホームページの更新。

## 5 組織委員会

- 1) WEB会議、書面採決なども含め、役員会・総会等を開催した支部に対して活動支援金を支出。
- 2) 状況に応じて開催されることとなった各支部の総会への参加。
- 3) メール交換等も含め、必要に応じて各支部及び委員会内での意見交換・連絡調整。
- 4) 同窓会の各行事が開催されることとなった場合には、これに参加。

# 令和4年度予算

(単位:円)

項目	予算額	備考	
収入の部	建築同窓会年会費	690,000	年会費 3,000円×180名 永年会費 30,000円×5名
	学生会員会費	900,000	学生会員会費 10,000円×90名
	事業収入	400,000	情報交流会参加費等
	理工同窓会援助金及び学生会員援助金	280,000	理工同窓会援助金
	寄付金	10,000	協賛金等
	利子及び雑収入	1,000	利子(元帳+各委員会)等
	収入合計(A)	2,281,000	

(単位:円)

項目	予算額	備考	
支出の部	総務委員会	540,000	
	学科支援金	300,000	建築学科への支援金
	会議費	120,000	評議員会、役員会、正副会長会
	交際費	40,000	他会お祝い金、慶弔費
	運営費	80,000	通信費等
	財政委員会	210,000	
	郵送費	100,000	会費振込依頼、お礼状発送費
	印刷費	50,000	同窓会封筒等印刷
	運営費	60,000	オリエンテーション、ガイダンス等打合せ
	事業・経済交流委員会	430,000	
	情報交流会費	400,000	情報交流会会場費等
	事業費	20,000	見学会、講演会等
	運営費	10,000	備品費等
	会報・名簿・IT委員会	840,000	
	印刷費	350,000	会報等案内印刷
	郵送費	290,000	会報郵送等
	名簿調査作成費	50,000	名簿調査
HP管理費	140,000	ドメイン更新、HPメンテナンス	
運営費	10,000	通信費、備品費等	
組織委員会	210,000		
支部支援費	110,000	中国、関西、岐阜、名古屋支部	
旅費交通費	60,000	各支部総会旅費	
運営費	40,000		
予備費	51,000	振込手数料等	
支出合計(B)	2,281,000		
当期収支差額(A)-(B)	0		



# 名城大学建築同窓会会則

## 第1章 総 則

- (名称)  
第1条 本会は名城大学建築同窓会と称する。
- (事務所)  
第2条 本会の事務所は名城大学理工学部建築学科内に置く。
- (支部)  
第3条 1. 本会は役員会の承認を得て原則として地域単位とする支部を設置することができる。  
2. 支部細則は必要に応じ役員会の議決を経て設けることができる。

- (目的)  
第4条 本会は会員相互の親睦を図ると共に地域社会への貢献、文化の振興を図り名城大学及び名城大学建築学科の隆盛発展に寄与することを目的とする。

- (事業)  
第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。  
1. 会員名簿の整備  
2. 会報の発行及びホームページに会報の情報掲載  
3. 懇親会、見学会、講演会及び研究会等の開催。  
4. 学生会員に対する援助  
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

## 第2章 会 員

- (組織)  
第6条 本会は会員、特別会員、名誉会員を以て組織する。
- (会員の資格)  
第7条 本会員となる資格は次の各項の定めるところによる。  
1. 会 員 (1) 名古屋専門学校応用物理建築分科卒業生。  
(2) 名城大学理工学部建設工学科建築分科卒業生。  
(3) 名城大学理工学部建築学科卒業生。  
(4) 名城大学大学院工学研究科建築学専攻修了生。  
(5) 名城大学大学院理工学研究科建築学専攻修了生。  
(6) 前(1)～(5)項に籍を置く者で役員会で承認した者は会員に準ずる。  
2. 名誉会員 本会に功勞のあるもので総会の承認するもの。  
3. 学生会員 前1項の(3)、(4)在籍者。  
4. 特別会員 名城大学理工学部建築学科の教職員。  
5. 賛助会員 個人または団体で本会の事業を賛助するもので評議員会の承認を得たもの。
- (会費)  
第8条 1. 年会費は3,000円とする。納入した会費は返却しない。  
2. 60才以上の会員が永年会費30,000円を納入した場合は、以降の年会費を免除する。  
3. 学生会員は、卒業後5年迄の会費10,000円を納入する。

## 第3章 総 会

- (総会の召集)  
第9条 1. 通常総会は毎年1回事業年度終了後3ヵ月以内に会長が召集する。  
2. 臨時総会は評議員会または役員会で必要と認めるとき会長が召集する。
- (総会の通知)  
第10条 総会の召集はその2週間前までに日時・場所を示した文書、又は校友会会報をもって会員及び名誉会員に通知しなければならない。
- (総会の議決事項)  
第11条 総会では次の事項を議決する。  
1. 事業報告、収支予算ならびに財産目録の承認に関する事項。  
2. 事業計画及び予算に関する事項。  
3. 重要な財産の取得、処分に関する事項。  
4. 評議員会、役員会で必要と認めた事項。  
5. 評議員会における選出役員を承認する事項。
- (総会の議決)  
第12条 1. 総会の議事は出席会員の過半数の同意で成立する。  
2. 議事の議決同意が可否同数の時は議長が決める。  
3. 総会の議長は出席会員の中から選任する。
- (議事録)  
第13条 1. 議長は総会の議事について議事録を作らなければならない。  
2. 議長は議事録署名人を出席会員の中から選任する。

## 第4章 役員及び会議

- (役員)  
第14条 1. 本会には次の役員を置く。  
(1) 名誉会長 1名 (7) 常任幹事 若干名  
(2) 会 長 1名 (8) 委員長 専門委員会  
(3) 副会長 6名以内 (9) 会 計 1名(補佐1名)  
(4) 監 事 2名  
(5) 支 部 長 各支部1名  
(6) 学内幹事 若干名  
2. 本会には相談役及び参与を置くことができる。  
相談役は役員会に諮って会長が推薦する。  
参与は本会の役員であった者の中から会長が推薦する。  
相談役、参与は本会の諮問に応ずる。
- (役員を選出)  
第15条 1. 会長、副会長、会計、監事は評議員会の推薦により選出する。  
2. 名誉会長は建築学科長がこれにあたる。  
3. 支部長は支部を構成する正会員の中から選出する。  
4. 学内幹事は学内の会員及び特別会員の中から互選により選出する。  
5. 常任幹事は会長の推薦により会員の中から選出する。
- (役員職務)  
第16条 1. 会長は本会を代表し会務を総理し評議員会役員会等の議長となる。  
2. 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時はその職務を代理する。  
3. 支部長は支部を代表し支部の会務を掌理する。  
4. 学内幹事は学科内の意見を集約し会との疎通を図る。  
5. 常任幹事は会長の補佐として各事業を援助する。  
6. 委員長は各専門委員会を代表し、委員会の会務を掌理する。  
7. 会計は本会の会計事務を行う。

8. 監事は年1回以上本会の事業及び会計監査を行いその結果を総会に報告する。

- (役員任期)  
第17条 1. 役員任期は2年とする。  
2. 補欠による役員任期は前任者の残任期間とする。  
3. 役員は再任を妨げない。  
4. 役員は任期中に退任しようとするときは評議員会の承認を必要とする。

- (役員会)  
第18条 1. 役員会は本会の運営を円滑にするための執行機関である。  
2. 役員会は名誉会長、会長、副会長、監事、各支部長、常任幹事、学内幹事、各委員長、会計、会計補佐によって構成する。尚 相談役、参与については会長が必要に応じ出席を求める。  
3. 役員会は役員過半数の出席をもって会議が成立し、出席者の過半数の同意がなければ議決することができない。尚出席出来ない時は委任状を議長宛に提出し、議決権行使することが出来る。

- (専門委員会)  
第19条 1. 専門委員会は第4条の目的と第5条の事業を円滑に達成するために評議員及び会員の中から若干名を選出し、これを構成する。  
2. 専門委員会は次による。  
(1) 総務委員会 (5) 組織委員会  
(2) 財政委員会 (6) その他必要となる委員会  
(3) 事業・経済交流委員会  
(4) 会報・名簿・IT委員会

## 第5章 評議員及び評議員会

- (評議員)  
第20条 1. 本会は会員の卒業年度の代表として評議員を選出する。  
2. 評議員は評議員の推薦による。又は各期会員の中から選出する。
- (評議員任期)  
第21条 1. 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。  
2. 評議員が欠けた場合の補充評議員の任期は前任者の残任期間とする。
- (評議員会)  
第22条 1. 評議員会は役員及び各期評議員で構成し会長が必要と認めた場合に会長がこれを召集する。
- (評議員会の開催)  
第23条 1. 評議員会は定例評議員会と臨時評議員会とする。  
2. 定例評議員会は、毎年総会の1箇月前とする。  
3. 臨時評議員会は役員会で必要と認めるとき、または評議員の3分の1以上の要請があったときに開催する。  
4. 評議員会の召集は議案を付して10日前までに通知しなければならない。
- (評議員の議決)  
第24条 1. 評議員会においての議事の議決は総会に準ずる。
- (評議員の審議事項)  
第25条 1. 評議員会の審議事項は、次の各号に定めるところによる。  
2. 総会の付議事項に関する事。  
3. 役員選出に関する事。  
4. その他必要と認める重要事項。

## 第6章 資産及び会計

- (基本資産)  
第26条 基本資産は会費、寄付金及び助成金でこれを構成する。
- (経費の支弁)  
第27条 本会の経費は基本資産ならびに事業から生ずる収入でこれを支弁する。(事業年度)  
第28条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。(特別会計)  
第29条 本会に特別会計を設けることができる。

## 第7章 雑 則

- 第30条 本会則は総会の議決によって変更することができる。  
第31条 本会は会務運営及び第5条の事業遂行のために必要な委員会及び部会を設けることができる。

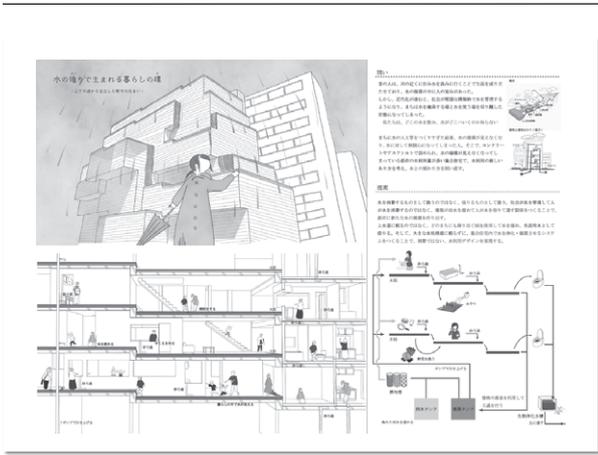
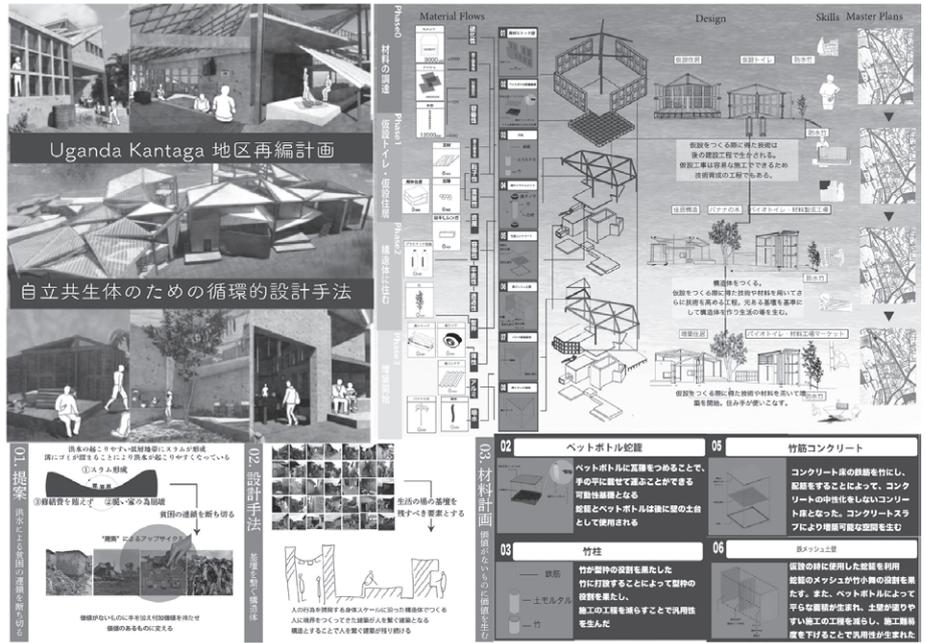
## 附 則

- (1) 本会則は、昭和38年9月22日より施行する。  
(2) 昭和45年 9月14日会則一部改正及び訂正施行する。  
(3) 昭和51年 8月 7日会則一部改正施行する。  
(4) 昭和57年 9月12日会則一部改正及び訂正施行する。  
(5) 昭和60年 9月 8日会則一部改正及び訂正施行する。  
(6) 平成元年 9月17日会則一部改正及び訂正施行する。  
(7) 平成 5年 9月18日会則一部改正及び訂正施行する。  
(8) 平成 6年 9月25日会則一部改正及び訂正施行する。  
(9) 平成 7年 9月24日会則一部改正施行する。  
(10) 平成 8年 9月21日会則一部改正及び訂正施行する。  
(11) 平成10年 9月20日会則一部改正及び訂正施行する。  
(12) 平成12年10月 1日会則一部改正及び訂正施行する。  
(13) 平成13年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。  
(14) 平成18年 9月10日会則一部改正及び訂正施行する。  
(15) 平成19年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。  
(16) 平成20年 9月28日会則一部改正及び訂正施行する。  
(17) 平成23年 6月19日会則一部改正及び訂正施行する。  
(18) 平成28年 6月12日会則一部改正及び訂正施行する。

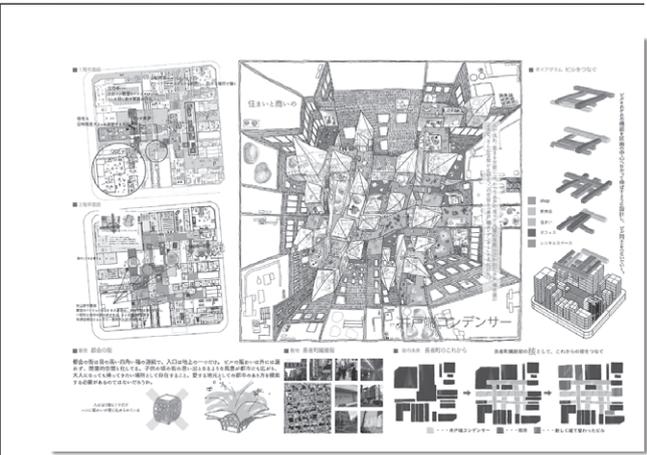
# 表紙・裏表紙解説

表紙：雑誌「近代建築」  
別冊掲載作品(新井 花奈)

現在世界には約10億人の方がスラムに住んでいると言われており、人口増加に伴い益々多くの方がスラムに住むようになってきている。本提案ではスラム住人が経済的自立をするための方法として「建築によるアップサイクル」を提案する。建築のプロセスを通じて技術を取得をし、スラム住人はスラム以外の場所であっても職を得る。街に溢れるあらゆる廃材を建材に変え、またインフラ設備を整えつつ街の中に緑や植物を増やす。スラム住人は、もののアップサイクルから始め、やがて街を変えていく。建築を通して新たな街づくりについて考える。



裏表紙:日本建築学会巡回作品(牛田 結理)



裏表紙:愛知建築士会提出作品(西本 帆乃加)

## ※題字 故中田 武教授

### 令和4年度役員

- |                            |                          |                            |
|----------------------------|--------------------------|----------------------------|
| 名誉会長 石井 仁教授 (建築学科長)        | 参与 坂崎 日支夫 (昭和35卒)        | 常任幹事 三浦 彩子 (平成8卒)          |
| 学内幹事 平岩 陸 (建築学科)           | 参与 鈴木 寛 (昭和34卒)          | 総務副委員長 鈴木 賢三 (昭和55卒)       |
| 会長 鈴木 千春 (昭和54卒)           | 参与 安藤 洋 (昭和41卒)          | 財政副委員長 駒 秀夫 (昭和45卒)        |
| 副会長(総務) 大橋 裕一 (昭和56卒)      | 総務委員長 稲垣 友彦 (平成6卒)       | 事業・経済副委員長 岡本 裕太 (平成19卒)    |
| 副会長(財政) 磯野 信秀 (昭和47卒)      | 財政委員長 深谷 晴彦 (昭和60卒)      | 会報・名簿・IT副委員長 深谷 光秀 (昭和53卒) |
| 副会長(事業・経済) 鈴木 千春 (昭和54卒)   | 事業・経済委員長 伊藤 正樹 (平成14卒)   | 組織副委員長 佐藤 勝巳 (昭和59卒)       |
| 副会長(会報・名簿・IT) 安井 真 (昭和48卒) | 会報・名簿・IT委員長 三宅 賢二 (平成4卒) | 城友会会長 武長 義典 (昭和60卒)        |
| 副会長(組織) 安田 博幸 (昭和52卒)      | 組織委員長 伊藤 栄基 (平成7卒)       | 岐阜支部長 河村 彰雄 (昭和40卒)        |
| 監事 岡野 廣海 (昭和50卒)           | 会計 松岡 豊 (昭和48卒)          | 名古屋支部長 大井 俊明 (昭和47卒)       |
| 監事 山中 弘 (昭和53卒)            | 常任幹事兼相談役 石川 豊 (昭和47卒)    | 尾張東支部長 駒 秀夫 (昭和45卒)        |
| 相談役 加藤 哲也 (昭和38卒)          | 常任幹事 鈴木 善徳 (昭和43卒)       | 西三河支部長 深谷 光秀 (昭和53卒)       |
| 相談役 廣瀬 敏郎 (昭和44卒)          | 常任幹事 谷田 真 (平成7卒)         | 東三河支部長 山本 利州 (昭和37卒)       |
| 相談役 岩崎 征一 (昭和41卒)          | 常任幹事 大塚 貴弘 (建築学科)        |                            |
| 相談役 小木曾 森司 (昭和48卒)         | 常任幹事 杉村 竹次 (昭和48卒)       |                            |
| 参与 秦 和久 (昭和30卒)            | 常任幹事 荒木 衛 (昭和58卒)        |                            |

